

第1回 九州大学箱崎キャンパス跡地利用将来ビジョン検討委員会 議事録

開催日時：平成24年3月25日 13:30~16:00

場所：九州大学箱崎キャンパス 創立五十周年記念講堂大会議室

会次第

1. 開会
2. 九州大学 今泉副学長挨拶
3. 福岡市 渡邊副市長挨拶
4. 委員紹介
5. 委員会設置要綱の説明及び委員長、副委員長の選任
6. 資料説明（大学移転事業の概要、地区の変遷、地区の概況 等）
7. 質疑及び意見交換
8. 事務連絡
9. 閉会

議事録

1. 開会

事務局
(西)

ただいまより、第1回九州大学箱崎キャンパス跡地利用将来ビジョン検討委員会を開催させていただきます。

本日進行を勤めさせていただきます九州大学企画部統合移転推進課長の西です。よろしく申し上げます。

会議に先立ちまして、資料の確認をさせていただきたいと思います。本日、お手元にお配りしました資料ですが、上から順番に本委員会の次第、続きまして、座席表、資料の1としまして、本委員会の設置要綱、資料2-1としまして、第1回の委員会資料、資料2-2としまして本委員会の参考資料、資料3としまして、跡地利用に、すみません失礼しました。九州大学移転跡地の利用に関する4校区の提案。以上の6つの資料となっております。

なお、会議次第と資料につきましては、委員の皆様事前に配布しているものから、一部修正しておりますので、本日改めてお配りしております。さらに委員の皆様には、委員の委嘱の辞令を入れた封筒、「2011福岡の都市計画」、「九州大学概要」の資料も置いておりますので、併せてご確認願います。

皆様、お手元の資料は揃っておりますでしょうか。

よろしければ、次に進めさせていただきたいと思います。

この委員会の会議は公開ということで行わせていただいております。本日傍聴される方につきましては、受付にて配布しました傍聴にあたっての注意事項に記載されている事項を順守していただき、委員会の円滑な運営にご協力いただきたいと思います。特に携帯電話はマナーモードにするか、電源をお切りいただくようお願いいたします。

また報道関係の皆様におかれましては、委員の皆様の発言、議論、また一般の方の傍聴の妨げにならないように十分配慮をお願いいたします。なお、委員長、副委員長の選任後、議事に入る前に、別途カメラ撮影の時間をお取りします。会場全体の撮影については、その時をお願いしたいと思います。

それでは本委員会の開会にあたりまして、九州大学を代表しまして、今泉副学長よりご挨拶をいただきたいと思います。よろしく申し上げます。

2. 九州大学 今泉副学長挨拶

今泉副学長	<p>皆さん、こんにちは。九州大学の代表でございます。箱崎キャンパス跡地利用将来ビジョン検討委員会の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げさせていただきます。</p> <p>この委員会は、福岡市と九州大学の共同により発足の運びとなりました。委員には学識経験者、民間有識者、箱崎4校区の皆様、経済界、県や国など行政機関の方々にも、ご参加をいただきました。皆様には、箱崎キャンパス跡地の将来構想の基本的な枠組みを検討していただきまして、計画的なまちづくりとともに、円滑な跡地処分について大局的な見地から、ご提言を賜りたいと存じます。</p> <p>ご承知のとおり、九州大学は統合移転事業を3つのステージに分けて、進めております。既に工学系移転の第1ステージ、全学教育系移転の第2ステージと完了いたしました。現在、理学系、文系及び農学系移転の第3ステージに入ったところでございます。</p> <p>しかしながら、第3ステージの最初の移転となる理学系につきましては、震災復興などにより、国による平成24年度の予算措置が見送られました。九州大学といたしましては、長期にわたる移転が、教育、研究に与える影響を考慮いたしますと、当初の予定通り、平成31年度までには統合移転事業を完了したいというふう考えております。</p> <p>ところで、昨今の国の財政状況は、非常に厳しく、切迫、逼迫していると申せます。本学の統合移転事業に関しましても、伊都キャンパスの施設整備は箱崎キャンパス等の土地処分費用をもって充当することが求められているところでございます。そのため、移転跡地の円滑な処分に期待せざるを得ないところから、現在福岡市の協力をいただきながら、跡地処分に向けた作業を進めているところでございます。</p> <p>また、九州大学といたしましては、100年にわたりお世話になりました箱崎地区のさらなる発展のためにも、また本学の都市計画を専門にしている教員で箱崎キャンパス跡地構想案というものを作成いたしまして、既に箱崎4校区の皆様には、ご紹介をさせていただいているところでもございます。</p> <p>委員の皆様方におかれましては、箱崎地域の一層の発展とよりよいまちづくりのために、跡地の将来ビジョンについて、ご議論をいただき、確かな跡地利用計画を、できるだけ早期に策定していただければ、大変幸甚でございます。最後になりますが、委員の皆様にはお忙しいところ、この委員会の参画をご快諾いただきましたこと、それから今日は休日にも拘わらず、ご出席をいただきましたことを深く感謝申し上げる次第でございます。今後とも、どうぞよろしく願いいたします。</p>
-------	---

3. 福岡市 渡邊副市長挨拶

事務局 (西)	<p>ありがとうございました。続きまして、福岡市を代表して、渡邊副市長よりご挨拶を申し上げます。よろしく願いいたします。</p>
渡邊副市長	<p>はい、皆様、こんにちは。福岡市副市長の渡邊でございます。九州大学箱崎キャンパス跡地利用将来ビジョン検討委員会の発足にあたりまして、一言ご挨拶をさせていただきます。</p> <p>本日、ご出席をいただきました皆様方には、大変ご多忙の中、本委員会の委員にご就任をいただきまして、厚く御礼を申し上げます。</p> <p>さて、九州大学箱崎キャンパスがでございます。ここ箱崎地区は、近代都市福岡の出発点となった場所のひとつでございます。100年にわたりまして大学とともに歩んできたまちでございます。現在も非常に都心に近く、地下鉄あるいはJRという鉄道、それから国道3号、都市高速という非常に交通至便な地でございます。中心市街地の中の地域拠点という本市の都市構造上も非常に重要なまちとして、将来の発展の核となる場所だというふうに考えております。</p> <p>そういう意味におきまして、その跡地のまちづくりにつきましては、九州大学と福岡市が主体となって、皆様とともに計画を推進してまいりたいと、このように考えて</p>

	<p>おります。</p> <p>さて最近福岡市は、非常にコンパクトで住みやすいまちだという評価を内外から受けているわけでございます。ただ、我々は決してこういう評価に対して甘んじるのではなく、しっかりした将来に向かった都市づくりが必要であると、このように考えております。</p> <p>平成24年度の予算の編成の中でもですね、都市の成長と質の向上を図るという政策を予算化して、現在の議会で審議をいただいているところでございますけれども、まあ、その中のひとつのキーワードといたしまして、「ユニバーサルなまち」、ユニバーサルシティ福岡の実現というものを掲げさせていただいておりますこれはみんなにやさしいまちづくり、いわゆるハードなものと、みんながやさしいまちというソフトな、この2つの両面からまちづくりを進めて質の高いまちをつくっていくというそういう目標でございます。</p> <p>今日からこの検討委員会で箱崎キャンパス跡地のまちづくりについて検討していただくわけでございますけれども、当然都市の成長を牽引するような都市機能をこのまちにどうやって導入していくのかと、そういうご検討をいただくのは当然でございますが、もう一面では、生活者の視点、来訪者の視点、そういうユニバーサルなまちづくりという視点を併せてご検討いただければありがたいと思っております。</p> <p>いずれにいたしましても、この検討委員会、いわゆる知を結集して、すばらしいプランを作って、そして、遂行していこうというものでございます。</p> <p>本日お集まりいただきました皆さん、それにふさわしい委員の方々に、今回はご就任をいただいたと、このように思っております。</p> <p>ぜひとも、委員の皆様方の忌憚のないご意見交換と、それからご審議をお願いしたいと思えます。</p> <p>最後になりますけれども、将来ビジョンが魅力にあふれ、そして実現性の高い提言となりますことを祈念申し上げまして、簡単でございますが、私の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。</p>
事務局 (西)	ありがとうございます。渡邊副市長におかれましては、この後公務がございますので、これで退席させていただきます。
渡邊副市長	では、皆様、よろしく願いしておきます。
4. 委員紹介	
事務局 (西)	<p>続きまして、本日ご出席いただいております委員の皆様をご紹介させていただきます。ご紹介にあたりましては、委員の皆様から、一言ずつあいさついただければ幸いです。</p> <p>それでは、資料1の裏面の名簿に従って、ご紹介させていただきます。</p> <p>東京大学大学院 新領域創成科学研究科 教授 出口委員です。</p>
出口委員	東京大学の出口です。昨年3月末まで九州大学に勤務しておりました。よろしくお願い致します。
事務局 (西)	九州産業大学 経済学部 教授 益村委員。
益村委員	九州産業大学の益村でございます。私は経済学の分野からお役に立てればと思っております。どうぞよろしくお願い致します。
事務局 (西)	九州大学 工学研究院 教授 塚原委員。
塚原委員	九州大学の塚原でございます。専門は都市地域計画の方をやっております。我が大学のことであるのですが、私、東区出身でございますので、この地域の跡地がやっぱりまちづくりにうまく活用できるように、ふるさとを愛する気持ちとともにやら

	せていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。
事務局 (西)	財団法人九州経済調査協会 調査研究部長 田代委員。
田代委員	九経調調査研究部長の田代と申します。私ども九経調と略されて呼んでおりますが、九州をエリアとする景気動向とか産業経済動向、その他まちづくりなんかのお手伝いをやらせていただいているシンクタンクでございます。よろしくお願いいたします。
事務局 (西)	福岡地域戦略推進協議会より松田委員。
松田委員	松田でございます。福岡地域戦略推進協議会は、昨年発足しました。産官学民で地域の国際競争力を高めようということで活動しておりまして、今回も国際的な視点から貢献できればと思っております。よろしくお願いいたします。
事務局 (西)	箱崎校区代表 箱嶋委員。
箱嶋委員	箱嶋です。よろしくお願いいたします。ようやくこうした将来計画ビジョンが開催されるということで、感慨深いです。平成9年から箱崎については、まちづくり協議会を作りましていろいろな検討をやりました。また、平成20年からは4校区で一緒に九大跡地について検討を進めております。今日はよろしくお願いいたします。
事務局 (西)	東箱崎校区代表 山内委員。
山内委員	山内です。箱嶋さんと一緒に4校区一緒になって九大を取り巻いている地域でございます。もちろん、専門家でも何でもないのでありますが、今回地域のためになるまちづくりということで、ない知恵を出し合って提案を出しているところです。そういうことで委員会がぜひいろいろと進みますように、よろしくお願いいたします。
事務局 (西)	宮松校区代表 斎藤委員。
斎藤委員	宮松校区まちづくり協議会の会長をしております斎藤です。本業は建築の方をやっております。建築がまちをどうつくっていくのかというテーマで5年前、九大の50周年記念講堂を借り切りまして、まちづくりについてのシンポジウムをさせていただきまして、その時出口先生に大変お世話になりました。この場をお借りして改めてお礼を申し上げます。よろしくお願いいたします。
事務局 (西)	松島校区代表 芝田委員。
芝田委員	芝田です。よろしくお願いいたします。松島校区はこの4校区の代表のひとりでございます。松島校区は、できてまだ20年ぐらいなのですが、その校区の一部、Aブロックというところは昔から九州大学のゆかりのたくさんあるところでございまして、皆さんと一緒に勉強させていただきたいと思っております。どうぞ、よろしくお願いいたします。
事務局 (西)	社団法人九州経済連合会 常務理事 漆間委員。
漆間委員	九州経済連合会の漆間と申します。よろしくお願いいたします。通称、九経連といいますが、九州はひとつという理念のもとで、九州全体の経済の活性化ということを目的に活動してきております。そういう視点で何かお役に立てればと思っております。どうぞ、よろしくお願いいたします。

事務局 (西)	福岡商工会議所 専務理事 橋本委員。
橋本委員	商工会議所の専務の橋本でございます。福岡商工会議所は中小企業の経営支援、それと地域活性化を大きな課題としております。こういう景気状況の悪い中、そしてまちの構造がこういうふうに変わる中で、商工会議所といたしましても、積極的に関係を持っていきたいと思っております。どうぞ、よろしく願いいたします。
事務局 (西)	財務省福岡財務支局 管財部長 阿部委員。
阿部委員	福岡財務支局の阿部でございます。私ども、九州北三県の国有財産、国有地の管理処分、有効活用等を所管しています。どうぞ、よろしく願いいたします。
事務局 (西)	国土交通省九州地方整備局 建政部長 岸委員。
岸委員	九州地方整備局建政部長の岸と申します。私ども九州地方整備局の建政部でございますが、九州地方の地方公共団体のまちづくりを積極的に支援、サポートすることを主な任務といたしております。この委員会でもそのような立場から、将来ビジョンがよりよいものになりますよう微力ながら、力を尽くさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願い申しあげます。
事務局 (西)	福岡県企画・地域振興部副理事兼総合政策課長 野田委員。
野田委員	福岡県の総合政策課長の野田と申します。よろしく願いいたします。私、福岡県ですね、企画・地域振興部でございますので、まあ、福岡県ですね、全体としての一体的な発展という観点からですね、参加させていただいているとおもいますので、そういう視点でいろいろ考えたいと思います。よろしく願いいたします。
事務局 (西)	株式会社日本政策投資銀行 九州支店長 増山委員ですが、本日は業務のため、代理の久間企画調整課長がご出席いただいております。
久間委員	すみません、本日、増山が都合がつかずに、出席させていただいております代理で久間と申します。私ども政府系の金融機関でございまして、投資、融資のみならずですね、地域活性化の調査・研究なども行っていますので、その観点から何かお役に立てればと思っておりますので、ぜひよろしく願い申し上げます。
事務局 (西)	独立行政法人都市再生機構九州支社 都市再生業務部長 土橋委員。
土橋委員	UR都市機構の土橋と申します。私どもは、全国で大規模な工場跡地等の土地利用転換ですね、これによるまちづくりを公共団体のパートナーとして、いくつもやってきておりますので、その経験をこのビジョンづくりの中で活かせばいいかなと思っております。どうぞ、よろしく願いいたします。
事務局 (西)	九州大学 企画部長 井戸委員。
井戸委員	九州大学企画部長の井戸でございます。九州大学におきまして、統合移転事業を担当させていただいております。そういった意味から本日委員会が始まりましたことを非常にうれしく思っております。皆様の良い意見を頂戴したいと思っております。
事務局 (西)	九州大学 新キャンパス計画推進室 教授 坂井委員。

坂井委員	坂井です。新しいキャンパスの担当をやっております。4、5年前から病院地区、大橋地区、他にキャンパスございますけれども、その担当をするようにということで、この箱崎地区についても九州大学全体のキャンパスを見る仕事をさせていただいております。よろしくお願いいたします。
事務局 (西)	福岡市総務企画局長 貞刈委員。
貞刈委員	福岡市の貞刈です。私は係長をしていた頃にですね、大学移転対策局におりまして、用地買収の、伊都キャンパスの用地買収の担当をしておりました。毎週1回は九大の本学の方と元岡の方と行ったり来たりして。当時から九大の統合移転は箱崎や六本松の跡地の売却というのが前提となっております、それが結構課題が多いですね、難しい問題だけど、それがきちんとやれないと、なかなか難しいなど。今、話をいろいろしながら20年ぐらい経って、また、議論をさせていただくということで、しっかり参加させていただきたいと。よろしくお願いいたします。
事務局 (西)	福岡市住宅都市局長 馬場委員。
馬場委員	福岡市住宅都市局の馬場でございます。本委員会を福岡市の方の事務局を担当させていただいております。事務局のスタッフ、非常に張り切っておりますので、皆様のご協力のもとに、素晴らしいビジョンを描ければというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

5. 委員会設置要綱の説明及び委員長、副委員長の選任

事務局 (西)	<p>以上の方々となっております。皆様、どうぞ、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは議事に先立ちまして、本委員会の設置要綱を説明させていただきます。詳細につきましては、本要綱を後ほどご参照いただきたいと思いますのですが、事務局から簡単に説明させていただきます。</p> <p>本委員会の目的ですが、本委員会は九州大学の移転に伴う九州大学箱崎キャンパス跡地の計画的なまちづくりと円滑な跡地処分に向けて、その基本的な枠組みを示す「箱崎キャンパス跡地将来ビジョン」の検討を行うことを目的としております。</p> <p>組織・委員ですが、委員は先ほどご紹介させていただきましたが、別表に掲げる委員をもって組織します。</p> <p>委員長と副委員長ですが、委員長と副委員長は、委員の互選により選任することとしております。</p> <p>会議は原則、公開するというようにしております。</p> <p>委員会の運営につきましては、九州大学と福岡市が共同であたらさせていただきます。</p> <p>以上です。よろしくお願いいたします。</p> <p>では、早速ですが、本要綱に従い、委員長を選任したいと思います。委員長の選任については、設置要綱第5条、第2項により、委員の中から互選することになっております。事務局としましては、都市計画の専門家である東京大学教授の出口委員を委員長に推薦したいと思いますのですが、皆様いかがでしょうか。</p>
委員	異議なし。
事務局 (西)	はい、ありがとうございます。これもちまして、本委員会の委員長を出口委員にお願いしたいと思います。それでは、これより本委員会の進行を出口委員長にお願いしたいと思います。出口委員長、よろしくお願いいたします。

<p>出口委員長</p>	<p>議事に入る前に一言ご挨拶をさせていただきます。僭越とは存知ますが、委員長を仰せつかることになりました東京大学の出口です。宜しくお願いします。</p> <p>この会議は来年度まで年度をまたいで何回かにわたり行われる予定と聞いています。最終的には、キャンパスの跡地利用の将来ビジョンを、皆様から意見を頂きながらまとめていくという大変大きな役割を担います。是非、皆様から建設的なご意見を頂き、ご協力を頂けるように進めて参りたいと思っておりますので、宜しくお願いいたします。</p> <p>私事で恐縮ですが、私は現在、東京大学に勤務していますが、昨年3月末に18年間勤めた九州大学を退職し、現職に異動しました。18年間、箱崎キャンパスにお世話になり、私は30代・40代をこの場所で過ごし、学生達と大いに勉強し、呑んで遊んでという、言ってみれば私にとってはふるさとのような所で、そうしたキャンパスの跡地計画に携われることは、私自身にはとても意味深いものがあります。</p> <p>本日からスタートするキャンパス跡地利用将来ビジョン検討委員会ですが、この後、九州大学の移転が完了するには確か7年ほどあったと思います。</p> <p>そのような中、このタイミングで将来ビジョン検討委員会を開催することには、いくつかの意義があると思っております。先程、九州大学の副学長の今泉先生、それから福岡市の副市長の渡邊様がそれぞれのお立場から意義をおっしゃっていました。少し別の観点から考えてみますと、この箱崎キャンパスの跡地は、確か約45ha程ありますが、大変規模の大きな土地で、土地利用の変化は周辺に対してもかなり大きな影響をもたらすと予想されます。また、多様な多くの方々が関係する事になりますので、そういった方々の間で、今から長期的なビジョンを共有していくことは極めて重要だと思います。プロジェクトを場当たりに立ち上げて、恐らくこの周辺地区のまちづくりに対して、個々のプロジェクトの意義が非常に乏しいものとなるだけでなく、小さな、あるいはマイナスの影響をもたらすものになってしまう可能性すらあります。今から長期的なビジョンを皆様で共有し、方向性を共有しておくことが非常に重要だと思います。</p> <p>それからもう一つは、今日は福岡市の局長さんがお二人、委員として参加されています。一昨年に市長選挙があり、新しい市長の下で近々、第9次の総合計画の検討に入ると伺っています。このことは福岡市の中・長期的な展望に立った総合的なマスタープランが作られることを意味しますが、その中にこの九州大学箱崎キャンパスの跡地利用の方針をきちんと位置づけて頂く、あるいは、このプロジェクトの意味を福岡市役所の内部や、福岡市全体の中でも共有していくことを図るタイミングでもあると思います。それ以外にも都市計画マスタープランや他の上位計画にこの跡地利用をきちんと位置づけておく必要があると思っております。</p> <p>それから三点目としては、ちょうど東日本大震災が起きてから1年経つわけですが、この1年間で日本全体の政策も社会情勢も大きく変わってきました。エネルギーや環境や高齢社会というものに対しても、考え方が大きく変わってきたのではないかと思います。日本の社会情勢や政策が大きく変わろうとしている時に、この跡地利用を皆で考え、日本の課題や将来展望に基づきながら、跡地利用のビジョンを考えていくには、非常に良いタイミングだと思っております。他にも様々な意義があると思いますが、以上の意義をまずは委員の皆様で共有した上で、この検討委員会での協議をお願いしたいと思いますので、一つ宜しくお願い致します。</p> <p>また、この委員会は地域の方々、あるいは市民の方々の関心が高く、大変大勢の傍聴の方々も来て頂いております。私自身がそうした方々に背中を向けるような席の配置で大変申し訳ないのですが、私は後ろ姿も格好良くないので、大変お恥ずかしいのですが、ご容赦ください。高い関心を持って頂いている中で、スタートしていきます。時間が限られおりますが、皆様から忌憚のないご意見を頂きたいと思っておりますので、どうか宜しくお願いいたします。</p>
--------------	--

出口委員長	<p>それでは早速ですが、本委員会の設置要綱に従い、副委員長を選任させていただきたいと思います。副委員長は委員の互選となっておりますが、私といたしましては、これまで九州大学のキャンパス計画に携わってこられ、また都市計画や建築をご専門としておられます九州大学新キャンパス計画推進室の坂井先生に、是非ともお願いしたいと思います。如何でしょうか。</p>
委員	<p>異議なし。</p>
出口委員長	<p>ありがとうございます。それでは坂井先生の副委員長への選任について、ご賛同いただける方は拍手をお願いしてもよろしいでしょうか。</p>
	<p>(拍手)</p>
出口委員長	<p>ありがとうございます。それでは副委員長は、坂井先生をお願いしたいと思います。坂井先生から一言ご挨拶をいただいてもよろしいでしょうか。</p>
坂井副委員長	<p>出口委員長のもとで、何かあった時はということです、私、委員として一生懸命務めます。よろしくお願ひいたします。</p>
出口委員長	<p>よろしくお願ひいたします。 それでは、先ほど事務局から説明がありましたカメラ撮影の時間を設けてもよろしいでしょうか。はい、では設けたいと思います。詳細については事務局の方からお願ひいたします。</p>
事務局(西)	<p>【事務局(西)】 それでは、議事に入る前に、冒頭にご案内させていただきましたカメラ等での撮影の時間をとらせていただきます。報道関係者による前方に移動しての撮影は、この時間のみとさせていただきますので、ご了承願ひます。</p>
	<p>(カメラ撮影)</p>
事務局(西)	<p>それでは、出口委員長、議事の進行をお願ひいたします。</p>
出口委員長	<p>はい、それでは議事に移りたいと思います。お手元の会議次第に基いて進めて参りますが、まずは事務局の方から、資料の説明をお願ひし、それから委員の方々から質疑及び意見交換、その後に事務連絡、閉会ということになっております。今日は時間が限られておりますが、恐らく資料説明に30分から40分ほど時間がかかるかと聞いております。その後の時間で、できれば委員の皆様から、お一人ずつご意見を頂ければと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。 それでは、資料説明をお願ひいたします。</p>

6. 資料説明（大学移転事業の概要、地区の変遷、地区の概況 等）

事務局説明

事務局（萩尾）

はい、それでは福岡市の住宅都市局大学移転対策部 跡地計画課長の萩尾と申します。本委員会は九州大学と共同でということで、福岡市側の事務局を担当しております。よろしくお願いいたします。

それでは、座って資料を説明させていただきます。説明させていただきます資料の該当ページをスクリーンにお映ししますが、文字とかが小そうございますので、文字とかは紙の方でご確認いただければと思います。それでは資料の右肩に2 - 1と書いてございます「箱崎キャンパス跡地利用将来ビジョン検討委員会 第一回委員会資料」というもので、ご説明させていただきます。

この資料の1ページを開いてください。

まず、この資料の構成をご説明させていただきますが、本日の資料はですね、これからご検討を1年間かけていただく上でのですね、情報を共有していただきたいという形の資料構成にさせていただきます。

まず、構成ですが、「将来ビジョン検討委員会の目的及び進め方」、それから「大学の移転事業の概要」、それから「地区の変遷」といたしまして、近代以前の地区がどうであったか、それから近代になっての市街地のなりたち、それから九州大学の歴史、それから現在の地区の概況といたしまして、位置関係、それから市の現在の上位計画で、どのようにこの地区が位置付けされておるか、それからこの地区の特徴であります交通の状況、それから事業所の動向、それから人口、土地利用の状況等々の地区の概況をご説明させていただいて、それから社会情勢の変化のお話をですね、それと東区の、この周辺の開発がですね、非常にいろいろ動いてございますので、東区の開発動向がどのようになってあるかというのをご説明をする形にします。

それでは資料を1枚めくっていただいて、1ページからご説明に入ります。

1ページでございますけれども、これは先ほど副学長と副市長のご挨拶にもありましたけれども、ここでは今から検討いただく箱崎キャンパスの跡地が、福岡市にとって、どういう場所であったかというのを少し確認する上で、「はじめに」という項目を設けましてですね、少し左の方に文章を書いておりますが、まず、九州大学は1911年に創設、創立されて、2011年に100周年、創立100周年を迎えたということで、現在さらなる飛躍を目指して、世界的な研究教育拠点を実現するために、2019年までに全学的移転の完了を目指されているということがひとつあります。

それから福岡市ですが、福岡市は1889年に町人のまち博多部と城下町福岡の人口5万人で誕生したわけですが、その後九州大学の創立に合わせましてですね、九州大学と福岡城下の間に路面電車が開通いたしまして、九州帝国大学、博多部、福岡城下を繋ぎ、近代都市としての骨格を形成してきた歴史がありまして、その骨格が今日まで続いているということ。それから機能面としますと、路面電車が走りました通り沿いにですね、大学が相次いで開校されましたですね、大学のまち福岡の、まさに出発点となったという事実があります。

それ以前の箱崎の地は、唐津街道の宿場町として、管崎宮を中心に1000年の歴史を持ち、栄えた地区でもあったという確認をさせていただきました上で、最後に本検討委員会は、福岡市が近代都市としての出発点となった箱崎、九州大学箱崎キャンパス跡地について、100年ぶりに土地利用を転換し、跡地利用のまちづくりを進めるにあたって、その将来ビジョンを検討していただくものであるということを最初につけています。

それでは、具体的な説明に入ります。資料の2ページをご覧ください。

まず、検討委員会の目的とその進め方のご説明です。

目的は冒頭からお話があります通り、このまちづくりと円滑な跡地処分に向けて、その基本的な枠組みを示す跡地利用将来ビジョンを検討することを目的とすると

いうことで、主な検討内容でございますが、まず一つ目は、まちづくりの方向性、コンセプト、それから二つ目が導入する機能、それから三つ目として土地利用の構想としまして、ゾーニングと都市基盤の考え方等々を検討していただきたいという形で考えております。

それから検討の流れですが、まず左の方から右の方へ動いていくのですが、23年度、今日の会議が一番左の会議で考えておまして、ここで地区の概要、課題ですね、委員の皆様方で共有していただきたいという会議が、まず今日の会議です。そして24年度になりまして、まちづくりの方向性、コンセプト、それから導入機能の検討、土地利用構想を検討していただきまして、最終的に24年度末に跡地利用将来ビジョンをとりまとめまして、九州大学の総長とそれから市長へ将来ビジョンを提言していただく形を考えてございます。

そして、その後25年度以降に、跡地利用のこのビジョンの提言を踏まえて、跡地利用の計画を策定するという形の流れで、考えているところでございます。24年の4月以降に、2ヶ月から3ヶ月に1回の形くらいのペースで会議を開催させていただければと考えているところでございます。

一応スケジュールは以上でございまして、移転事業の概要の説明に入ります。

3ページをお開きください。3ページ以降に今からご説明しますが、その1枚1枚の資料のおおよそのまとめを、左肩に赤字で書いてありますが、これが、それぞれのページ毎の一応まとめのようなものを、左肩に書いたスタイルで、今から資料はずっと流れてまいります。

まず、このページですが、箱崎キャンパスは、平成17年～19年に工学系の移転が完了しまして、27年以降に理学系、それから文系地区、農学系地区が順次移転する予定で、となっております。それで、ひとつその下に、統合移転事業の全体像というのが、図面が、地図がございまして、ここに箱崎地区、六本松地区、それと原町地区というところに赤い丸で、白抜きのところがございますが、これが、伊都キャンパスの方に移転をします。残りました病院地区、筑紫、大橋地区については、そのまま残るのですが、この箱崎、六本松、それから原町地区が移転が予定されておまして、これがこのページの、3ページの左の下の方に※印で一行書いてございまして、統合移転事業につきましては、跡地、その赤い丸の白抜き部分の跡地処分の収入を財源に伊都キャンパスの整備が行われるという、事業の全体像はそういうことでございます。

右の方の図面が、今の箱崎キャンパス跡地の状況でございまして、ブルーの工学部のところが、17.6ha、これは校舎は残ってございまして、既に機能としては伊都キャンパスの方に移られているという形で、あと理学系、それから農学系、文系地区が順次移転していくという形になります。それで、これの全体面積が42.6haという面積になります。

先ほど出口委員長の方から45haとおっしゃられましたけれど、このキャンパス跡地の外側にも九州大学はいくつか、寮ですとかいろいろな土地をお持ちで、それを合わせますと45haになりますが、この箱崎キャンパスのみに限りますと42.6haという面積になります。一応このページは以上でございまして。

では、次に4ページをお願いいたします。

ここでは地区の変遷で、近代以前から今までどういうふうな流れがあったかというのを概観したものでございます。

ここでは、ちょっと赤字を飛ばして、左の黒字の部分でご説明をいたしますが、黒字の部分の二つ目の行ですが、箱崎は923年に創建されたといわれております宮崎宮の門前町として栄えておったまちでございまして、ひとつ飛びまして、このキャンパス内には、元寇防塁も残っておるということでございます。右下の箱崎キャンパス周辺の歴史的資源という図面が、右の4ページの真ん中の、右の中段にあります。ここに赤い色をつけたところが箱崎キャンパスでございまして、その下に薄く元寇防塁というのがありまして、そこのキャンパスを縦にですね、元寇防塁が残っているという状況があります。

それからまた文章に戻っていただいて、今の元寇防塁の次の行ですが、唐津街道の、近世では箱崎宿がありまして、博多、青柳宿から箱崎宿に入って、博多の方に入って行く、そういう箱崎宿としてさかえておったということを書いてございます。

ひとつ、2行飛ばして、近代まで箱崎キャンパスの立地する一帯は、白砂青松の名勝の地で、秀吉の大茶会とかも催されました場所でもございましたということです。

最後のポッチのところですが、ここの箱崎の、後ほど説明いたしますが、箱崎海岸はずっと埋められましてですね、工業や物流の企業を誘致したような形で、現在の市街地が形成されてきたということを概観したものでございます。

それでは、今の歴史より、近代以降のご説明に入ります。

5ページをお開きください。

5ページの方は近代になりましての、地区の市街地の成り立ちを、おおよその年代で追ったものです。

まず、左の方の明治33年、1900年頃のまちですが、ちょっと地図がついていますが、この地図はですね、都市計画の基本図というものを利用して、活用したものでございまして、この1900年の一番最初は箱崎地区は、粕屋郡の箱崎町となって、管崎宮とその門前町が形成されておったということでございます。

その地図の中に、赤く書いた部分が箱崎キャンパスの位置になります。門前町がその南側に形成されておったという場所です。

それから、1926年のまち、大正15年のまちとありますが、これは明治36年、1903年に福岡医科大学が開設されまして、その後赤字で明治44年、1911年、九州帝国大学となりましたということで、その後、九州帝国大学が開設されて、市電が九州大学の南側まで開通しておりまして、箱崎町が拡大して、南側の市街地が形成が進んでおるといふ地図になります。

そして、その下に昭和25年、1950年のまちになってございまして、これは既に戦後になりますが、箱崎海岸がこの時には、既に一部、直近が埋め立てられまして、現在の国道3号が開通しております。鹿児島本線の東側にも市街地が拡大を始めておって、箱崎町が福岡市と合併したのは、1940年になります。こういう流れがあります。

今度は右の方の昭和47年、1972年頃ですが、ここでは箱崎浜が戦前一部埋め立てられましたが、それに追加ですね、今度は箱崎埠頭の埋め立て工事が始まっておるといふことで、このときには、鹿児島本線の東側もほとんど市街地になっておるといふことです。一部、今の松島校区のところは畑で残ってございまして、そのような状態です。

次、昭和、平成7年、1995年になりますが、ここではもう箱崎埠頭の埋め立て工事が完成しましてですね、地図を見ると、倉庫や工場が、立地が進んでおります。松島の地区にも市街地が拡大しておって、この時期になりますと、市電が廃止されまして、新幹線、地下鉄2号線、都市高速道路、国道3号バイパスなど、交通基盤の整備がずっと進んできたのが、この時代でございまして。一応、近代の市街地のなりたちは以上でございまして。

次に、九州大学の歴史をもう1回触れます。6ページになります。

ここが九州大学の箱崎キャンパスの中ですね、いろいろな動きがどうであったかという話になりますが、ここも黒字で、簡単に触れていきますが、明治36年、1903年ですが、京都帝国大学の福岡医科大学が設置されましたということですが、この文章中の2行目に、福岡、熊本、長崎の各県で大学誘致運動が起こりましたのですが、福岡の場合は、県議会、それから市、それから民間の方々、地域挙げての、官民挙げて運動を展開しまして、福岡に医科大学が置かれることが決まったというのが、まずそもそもの出発になります。

それから明治44年、1911年ですが、九州帝国大学が設置されまして、工科大学が開設されたということでもございます。これから大学の学部がずっと拡大していきまして、まず大正13年9月に法文学部が設置されまして、その後工科大学の後に工学部が設置、昭和14年に理学部ができて、文化系学部も順次こちらの方に移り

ましてですね、現在のキャンパス跡地にいろいろな建物が配置された形になっております。

一番下にキャンパスの建物の図面をつけておりますが、学部内で拡大してきたという形で、現在になってきているということでございます。

続きまして、今度は地区の現在、どのような地区の状況になっているかという話をご説明いたします。資料は7ページをお開きください。

まず、位置についてです。赤字の左肩に書いてございますが、福岡都心部に近い東区の地域拠点で、周辺には多々良川、宇美川が流れ、平坦な市街地を形成しておるということでございます。この図面の、左側の図面をご覧いただきたいと思いますが、これがですね、この箱崎キャンパスの跡地から円を描いておりますが、4 kmから6 km圏の間にですね、天神、そして博多駅、空港というのが、すべて入っている位置にあるということがあります。

それから今日、4校区の方々においでいただいておりますが、この箱崎キャンパスの周辺に4つの校区、小学校区に隣接している。東箱崎小学校区、そして箱崎小学校区、筥松小学校区と松島小学校区と4つの小学校区が配置された形になっているというのが、キャンパスの位置図でございます。

右の、箱崎キャンパスの周辺図を少し拡大したものがつけてございますが、後ほど説明いたしますが、交通の状態が、状況がわかるような地図として作成したもので、国道の3号線、それから都市高速道路が北側と東側に走ってございまして、そこに3号線のバイパスも、右の方でございまして、国道3号線のバイパスも走っております。それから鉄道はJRの鉄道と地下鉄の2号線、貝塚線が走っておるような交通の集中した地域環境にあると、そういう状況でございます。

次8ページご覧ください。

これは箱崎キャンパス跡地のスケールが、規模がどのくらいかというのを、皆様におわかりいただくために作った資料でございます。6つコマが、地図がありますが、上の方は福岡市内に合わせた時に、どれくらいの大きさかということで、上の段の一番左になります。これは天神地区に置き換えると、どのくらいの大きさかということで、国体道路の上側ですね、那珂川のところから大名地区をすっぽり覆うくらいの広がりになると。それから上の段の真ん中が博多駅周辺になります。博多駅筑紫口側から、ずっと大博通りを祇園町ぐらまでの交差点をすっぽり覆うくらいの広さになりますと、そういうスケール感になりますという地図です。

そして、下の3つが、東京や大阪で、どのくらいになるかということで、一番左が東京の霞が関がすっぽりと収まるくらいの広さになるという図、それからもう一つはビジネス街の東京駅前の丸の内地区、大手町地区がすっぽり入るくらいの大きさに、この42.6 haはそういうスケール感になるという資料でございます。

それから次は、上位計画との整合という話をします。9ページをお願いいたします。

これは右の方の図でご説明いたします。これは福岡市の現在の計画の中での位置付けをご説明する資料でございます。まず福岡市の基本計画ですが、右の図の上の方の構造図がありますが、これが福岡市の大きな構造を描いたもので、天神、博多という赤い都心がありまして、その三角の薄いだいだい色、オレンジ色の網がかかったところは、指し示したのもがあると思いますが、このオレンジの三角のところは、福岡市という中心市街地という位置付けをしておるところでございます。そこに箱崎地区が入るといふ形の図面になります。

この右下の方の図がですね、それをちょっと広げた都市空間の構造になりますが、先ほど言いました中心市街地の中で、この箱崎地区は地域拠点という位置付けで、今も、現在の計画では位置付けをしているということございまして、この地域拠点、箱崎と六本松は、中心市街地の地域拠点という位置付けです。地域拠点とは何かと申しますと、この右側のいちばん上に少し、カッコで書いてございますが、地域拠点は交通結節機能や日常生活に必要な商業機能に加え、区レベルの行政サービス、コミュニティ機能、またそれを補完する地域交流センターの整備など、区やそれに準ずる区域の拠点としての機能充実を目指す場所だということで、現在の計画では位置付けさ

れております。但し、これは出口委員長のほうからもございましたが、24年から25年度にかけて、福岡市の基本計画改訂を検討してございまして、今回の跡地の将来ビジョンについても、新しい基本計画との整合性をとる形で進めたいと考えているところでございます。

では10ページをご覧ください。ここから個別のお話で、機能の話を少し説明して参りますが、これは10ページが、まず大きなこの地区の特徴である交通がどんな状態かというのを説明の為に作った資料でございまして、赤い吹き出しの方には、先ほど言いました色々な交通機能が6km圏内にあるという話と、それから人の交通の基盤として地下鉄の箱崎線、JR鹿児島本線、西鉄貝塚線の駅があると。それから物流については陸海空の物流拠点が近接、近隣に位置してございまして、箱崎キャンパス周辺の幹線道路やそれらを結ぶ、主要な動線となっております状態にあります。

で、まず左の図に周辺の駅の位置図を示してございまして、これは先ほど申しました地下鉄の貝塚駅と箱崎九大前駅、それからJR箱崎駅という3つの鉄道の駅に囲まれた、非常に交通の至便性の高い場所にあるという形でございまして、それから右の方が、少しこれは物流の状態も分かるような形で、こういった図面で作ったものでございまして、薄紫で赤が、紫がかかってございまして、これが博多港の港の位置を示したもので、この中でもですね、上の方からアイランドシティと香椎パークポートと箱崎ふ頭というのがありますが、この3つのふ頭が今の博多港の主要な物流の拠点となっている港でございまして、それから箱崎ふ頭のすぐ右の方にはJRの貨物のターミナル駅がございまして、それと都市高速で福岡インターチェンジで繋がれて、これが縦貫自動車道と繋がっており、物流の動線上の色々な拠点もここに集中しておるといふ状態の資料でございまして。

それから、その次に11ページ。ここでは事業者、事業所がどんな風に今、貼り付いているのかという事を説明する為の資料でございまして、まずは左肩の見出しでいいますと、箱崎周辺では顕著な増減は見られないということですが、これはエリア別に見ますと、色々な増減が見えることとなります。まず2つ目の、この3つ目の吹き出しですが、箱崎ふ頭周辺は運輸倉庫の事業所がある部分と、それから3つ目のポツ、国道3号線の沿道で、大型の商業施設の立地が増加している現状があるということ、それから大学通り周辺で小売店やら飲食店は減少しているというように3つの異なる性格の事業所がですね、ここの色々な立地環境によって配置しておる状況があるという事でございまして。で、右の方には町丁別の事業所数と、それから増減がどうなっておるかというのを付け足した資料でございまして、これと併せてですね、お手元にある参考資料、資料の2-2というのを付けてございまして、その参考資料の12ページを少し見ていただきまして、どういう風な事業所があるかというのを参考までに付けてございまして。画面にはちょっと出てないですが、参考資料の12ページで、右の方にですね、商業施設が、国道3号線沿線沿いに、少し大型の何かそういう娯楽施設とかロードサイド施設とかが貼り付いているという話と、それから特に、一番大きいのは箱崎ふ頭にですね、こういう水産加工とか、製粉工場とかですね、そういう工場がここに貼り付いておるといふ事になります。

それから九州大学の赤く囲んだ所の下に赤い地域がありますが、これは後で説明しますが、用途地域で言うと商業地域になるんですが、これは大学前通りの近辺でして、大学前通りにもですね、飲食店等が貼り付いておるのですが、そこが、減少が見られるという、そういう状況がある。で、ここの12ページのこの図面の左には自動車の交通量の台数を資料として付けてございまして、後ほどご覧いただければと思います。

本編資料にまた、すみません、戻っていただきまして。本編資料の12ページ、13ページで今度は人口のお話をさせていただきます。

人口ですが、まず12ページの方が東区全体の人口のお話をまとめたものでございまして、赤い吹き出しの方でいいますと、千早とかアイランドシティとか、箱崎キャンパス周辺で人口が増加しておって、東区は大学の周囲に外国人の人口が多いという事で、当然の事ながら千早駅は香椎操車場でありましたので、そこが今開発されてマン

ションとかが増えてますし、アイランドシティもマンション開発とか宅地の開発が進んでおりますので、ここが人口が増加しておりますが、箱崎キャンパス周辺でもですね、人口が増加しておるという事です。

人口分布とそれから町丁別の推移は、この12ページの右側に付けてございますので、後でご覧いただければと思いますが、それではこの周辺4校区の人口がどんな風になっているのかというのが13ページになります。

13ページですが、赤い吹き出しで、周辺4校区には約5万人が居住されておるのですが、松島校区を筆頭に全ての4校区です、増加傾向であるという事で、この校区別人口データをこの13ページの左側の真ん中に書いてございます。箱崎校区がですね、平成14年が1万1千人余りだったのが、23年に、平成23年に1万3千人で増減率が117パーセント、それから東箱崎が、23年が6万、いや6千8百人で105パーセント、管松は1万、23年が1万1千人で117パーセント、松島も1万7千で125パーセント、というように4校区合計で118パーセントの人口増になっておまして、これ全市が108パーセントで、東区全体で見ても109パーセントでございます、非常にあの、人口が伸びておる状況があるという形であります。で、これをですね、この13ページの中段の棒グラフに年齢別のグラフを載せてございますのですが、そこで見ていただきますと減っておるのは、20歳から24歳までの部分がですね、おおよそ全ての校区で箱崎も、東箱崎も、まあ若干ですが、管松・松島校区でも減っていると、この人口は。だから、恐らくこれは大学生の方が減ったものに起因するのではないかと思います、ただ、それを補うような形でですね、全てのグラフの40歳～44歳、35歳～39歳のところを見ていただくと、このらへんは、30歳～34歳からこの3つの年齢構成区分くらいでは、全て人口は大体伸びておると。それに併せてですね、一番下の0～4歳から、0歳から15歳、19歳ぐらいまでの所がですね、増えていると。ですから、恐らく大学生の方が減った形になっておるんですが、それに変わる形ですね、ビジネスマンとかオフィスワーカーの方々が移り住み、その中でも子供を抱えたファミリー層の方々が移って来ているのではないかという形が見て取れるという風に考えておるところでございます。一応そういう状態、人口が増えておるという事です。

で、続きまして土地の利用の状況はどうなっているかというのが、14ページを説明申し上げます。この土地の利用の状況というのはですね、あまり聞き慣れない言葉かも知れませんが、どういう建物が建っておるかという事で、まちのコントロールの話になります。この土地利用の状況を下の左側の図面でご説明いたします。土地利用の現況という、今どんな風な使われ方、どんな建物が建っているとかですが、これは凡例に色を着けてございますので、そこからまず説明しますと、まず凡例の2番、商業施設が赤で記されております。それから7番が住宅、それから、8番が共同住宅、9番が店舗併用の住宅で、住宅系は黄色等のオレンジ系の色になります。

それから15番の運輸倉庫、16番17番、重工業、軽工業がグレーとそれから青で記されたものです。これで、左のこの一番左の、土地利用の現況を見ていただきますと、箱崎埠頭の周辺は、運輸倉庫それから重工業、軽工業、運輸はグレーですね、で、軽工業、重工業が濃いブルーになりますが、そういうものがはり付いておる場所があります。それから、国道3号から宇美川までは、住、商が混在した形、で、松島地区は、住宅と商業系施設、運輸倉庫が混在した形になりまして、で、これは、キャンパス跡地ではないですが、多々良川から右岸の方は、ほとんどは住宅系の用途となっておりますという状況です。それを、右図の方に都市計画図というのが、紫とかブルーとか黄色がありますが、今、左図の方でどういう建物が建っておるかということですが、これは、土地利用から申しますとブルーとその紫のところですね、都市計画の専門用語でいうと、準工業地帯と工業地帯ということで、ここはいろんなものが建築可能となっており、住宅も建てられますし、店舗併用みたいなのも建てられますし、工場も建てられるというような、土地利用のところでございます、まあこういうところにいるんなものが混在した形に現実的にあると、そういう状況がみれるようです。

それから、この14ページの上の方には、騒音指定区域、建物高さ制限の概略を描いてございますが、ここは、航空法による進入路の直下になりまして、こういうふうに、

騒音区域とそれから、建物の高さ制限がかかっておるといことがあります。

次は15ページで公共施設をちょっと確認いたします。この公共施設は、もう図面で見ていただいたらわかりますとおり、箱崎キャンパスの南側の箱崎駅周辺にですね、公共公益の施設が集積しておるとい事実があるといこととございまして、キャンパス跡地の一番上の方に東警察署がありますが、その下の南側の方に、JR箱崎駅のすぐ直近に法務局がありまして、それから、福岡県の粕屋の総合庁舎でありますとか、東福岡の社会保険事務所でありますとか、ちょっと離れて南側になりますと、博多税務署がありますとかで、おそらくこの、粕屋地域のですね、拠点であったときのいろんな関係で、こういう公共施設が集積している事実がありますといご説明でございます。

で、次は16ページに移ります。幹線道路の状況だけちょっと再確認をさせていただきますが、幹線道路につきまして、左の赤い吹き出しで書いてございまして、この、都市高速道路、国道3号、国道バイパス、箱崎阿恵線が整備されてるといことと、図面でご確認いただきながらですね、ご参照いただければと思っておりますが、箱崎キャンパス周辺に限っていえば、幹線道路密度が低く、東西方向の幹線道路が少ないといことと、都市計画道路の検証を福岡市の方で行ってございまして、その中でいいますと、左の図面でまず、赤い点線、博多箱崎線というところが赤い点線になってございまして、それと、この延長線上にある、堅粕箱崎線というのがキャンパス跡地にすぐ直近にですね隣接して走ってございまして、ここをどうするかとい再検討が今行われております。その再検討の中身がですね、右の図面の方に描いてございまして、まずこの5番のですね、博多箱崎線、この大学通りのですね、この5番、ちょっと非常に見にくいんですが、この図面でいけば赤い字のところ、点線が入ってるんですが、ここまでの区間が見直しの検討しているところですよとい区間になりまして、この点線の直下が道路の部分といわけじゃなくて引き出し線として表してあります。

それから、今度は上の方の1番の堅粕箱崎線、これもこの区間、この緑色の区間が、見直しといか再検討しようとい位置付けをしておるんですが、この緑の区間については、説明があとでございまして、九州大学の跡地利用計画と連携する必要があるため保留、まあ見直しはキャンパス跡地と同じ基盤整備にあわせて、見直しを図りましょうといそういう位置づけに福岡市としてしておるといこととございまして。それから、ここまでが、今の状況のご説明でございます。

で、最後に社会情勢の変化といのを最後に少しだけ触れさせていただきます。17ページをお開きください。17ページの左側、冒頭にご説明しましたが、東区以東が、さまざまな開発が今動き出しておるといことを示したご説明の資料です。

で、上の方からですね、まず、JRのししぶ駅周辺の古賀市で地区の区画整理等の開発があっております。で、その下にJRの下に新宮町の方では、沖田地区でですね、これも新宮中央の区画整理があつてございまして、ここにイケアが4月にオープンするとい、これがその地区になります。それから、JR沿線沿いでは、香椎駅の区画整理が行われておまして、すぐ多々良川を渡った向こう側で千早の開発が行われておるといことと、それからアイランドシティのまちづくりエリアにも居住の空間が生まれようとしているといことと、それからこれは物流の話になりますが、現在のアイランドシティの岸壁を使っている、上海行きのRORO船とかを集約する形でこの箱崎埠頭の方に移転させるとい計画があります。といこういういろんなプロジェクトがですね東区以東では動いてございまして、これを少しにらみながらですね、跡地のキャンパスのまちづくりをどうするかといご議論をいただければと思つて付けた資料でございます。

それからこの17ページの右の方はですね、国の政策の動向とかをまとめ、我々なりにですね、少しキーワードをまとめたものでございまして、それについては、日本再生の基本戦略とか、いろいろ今国の方でご検討いただいておりますような言葉を、ちょっと拾ったものでございまして、それについては、経済として、特にアジアを中心としたいろんな活力を取り込むようなビジネスの拡大を必要ではないかといこと

と、それから、雇用の話がとても大事になる話、それから、防災の面で震災後、災害に強い地域づくりをしなければならないという話と、それから、人口減少の中でコンパクトなまちづくりが必要であるという話、それから、環境とかエネルギーもですね、エネルギーの利用ですとかをどうするかという話、それから、人材の育成、そして、新しい国際競争社会の中で人づくりがとても大事だという話と、それから交流で、アジアの中での交流拠点としてどうするかという話と、それから、ユニバーサル、いろいろな海外からお見えになるときにユニバーサルな考えが必要ということと、それから、暮らしやすさ、景観・緑の意識が高まっているという話を、一応メモでこういうふう起こしたものでございます。

そして18ページにはですね、今までご説明をさせていただいたものをですね、ちょっとまとめて1ページにしてございまして、地区のこれまでの変遷、それから地区の現況、そして社会情勢の変化みたいなものをですね、一応情報共有を皆様方させていただいてですね、一番下にですね18ページの下に記してございますが、2回目の以降の中で箱崎キャンパス跡地の目指すべきまちづくりとか将来像をご議論いただければというふうな形で資料を、駆け足になりましたがご説明させていただきました。

それから、いろいろこれまで、まちづくりの検討を、今日おいでいただいている、4つの校区でのご検討をいただいております。4校区協議会の提案をまとめていただいております。これについては、4校区協議会の方からですね、ご説明をしていただければと思いますが、もう4校区協議会の提案はですね、22年3月とそれから23年の3月にですね、福岡市の方に提案をいただいたものでございます。では、引き続きようございませうか。では、4校区協議会代表者、お願いします。

4校区協議会説明

箱嶋委員

それでは箱崎校区の箱嶋でございますが、我々4校区を代表させていただきますまして、提案内容をご説明していきます。

資料的には資料2-2の14ページに市の方でまとめて頂いていますが、お手元に資料3というのがあるかと思えます。これが先程申されましたように、2010年3月に吉田市長、11年に高島市長に提案したものと同じでございます、九州大学総長のところにも、関係者のところにも、こうした内容を提案させていただいております。

資料3で説明させていただきます。1ページから、まず提案内容ですが、まず1段落目が跡地については、「第42回国有財産九州地方審議会答申」にある、「公用、公共用優先の原則の下に、広範な地域にもたらすものに重点的な活用を図ること」という下りを4項目書いています。

それから後段がですね、我々4校区が2008年の6月にですね各校区単独じゃなくて、周辺4校区でまとめて協議していこうという形での取り組みをしまして、提案につきましては、アンケート調査とか現地見学会をしまして随分と検討してきた内容です。あくまでも素人で作った内容でして、現在まで第26回まで協議会を進めております。そういうことで、この提案は我々4校区の意見です。

それから2ページお願いします、この2ページが基本的な考え方でございまして、上の方ですけど、我々4校区の代表者がこの検討委員会に参加させて下さいという要望でございまして、現実的に今日このはこびになったわけでございます。

考え方としましては、箱崎は古くから、門前町、それから糟屋の政治・経済の中心だということで、1,000年以上の箱崎、歴史を誇るまちだということと、もう一つ、この九大キャンパスが「地蔵松原」と称しまして、下関、堺そして箱崎と3つの三大蔬菜地域の一つであったということで、この九州大学がこの地に来られる時にも色々反対はありましたけれども、重要産業を失うという大きな犠牲を払った上でこのキャンパスが来られたということ踏まえ、将来的に先人たちに胸を張って報告できるような内容にしたいという思いでございまして。

それで、そのために、中程以降でございまして、地域住民の声を反映させた提案として下さいということと、10年、20年ではなく、50年、100年を念頭においた、「かくあってほしい」という理念を追求する。その前提として先程申しました、「国有財産九州地方審議会答申」の方針を踏まえたものでお願いしたいということでございます。箱崎だけの問題ではなくて、福岡、九州、日本、ひいてはアジア・世界に貢献できる跡地利用を目指して頂きたいということです。

それから4項目目につきましては、跡地全体を用途別に地区分けすることなく、市民が良好な環境を享受し、散歩やランニングなどができる、運動を楽しむことができる大規模な緑地公園、ニューヨークのセントラルパークというイメージをですね持って、この中に3つの基本テーマにした施設を配置するというようお願いしたい。

3ページ目がそのテーマでございまして、1つが「総合環境・防災ステーション」を中核とするということです。近年の大規模地震等を踏まえ、市民の避難場所となるゆたかな公園が是非とも必要だというふうに思っております。

テーマ2が九州大学があります、教育・文化・科学研究関連施設を誘致すると。

テーマ3として馬出地区にございます九大病院地区との連携を図るべきだということです。

それから5番目がですね、現在構内にあります、樹木とか経済産業省によって指定されております「近代化産業遺産群」、そして「福岡市都市景観賞」を受賞された建物を保存すると共に、この施設を利活用するというので、「はこもの」の建設は必要最小限にとどめるべきだという意見でございまして、それで、具体的な内容としましては、それと同時に貝塚公園と一体的として利活用を図ることによってそのようなものが考えられていくのじゃないかなと思えます。

それから、具体的な提案につきましては、4ページ以降、4、5、6ページにあります、

一番大きなものは、総合環境・防災ステーション。先程言いましたような、平時には周囲の緑地を公園として市民に開放できると同時に各種救難資材の備蓄施設をつくりまして災害発生時の緊急時の市民の避難場所として利用するという事です。警固断層とかですねそういう将来の活発化が心配されていますので、跡地は貴重な国有地でありますし、防災ステーションが避難場所としてピッタリの場所だと思います。このような災害につきましては、地震とか風水害がございますが、いろいろと近年の諸々の大気汚染とか諸々の汚染とかも考えてございます。そうすることによりまして、アジア・アフリカなどにつきましては、対策の遅れている地域についての、防災知識の普及を支援することもできるというふうに思っております。それから、そのことが、アジアに向かって開かれた都市、アジアの一翼一極を担うという福岡市の都市戦略にも合致すると思っております。

それからテーマ2の文教・文化活動施設としましては、箱崎中学が多々良川の右岸でございまして、4校区から一番端っこにある場所でございます。箱崎から行きますと40分程度かかるということでございますので、是非ともこのキャンパス内に移転をお願いしたいということです。

それから、九州大学が持つておられます学術的な資料とか、平和資料などを展示する「総合研究博物館」これを現施設を利用した形でお願いしたいということです。それから、今日の会場のこの50周年記念講堂を「多目的文化施設」として、開放していただきたいと考えていますし、また、老朽化による建替え移転が予定されております「少年科学文化会館」を、九州大学は工学部が中心でございますが、そういう意味からいきますと、やはり箱崎がふさわしい所かと考えております。

それから、農学部のところにあります中央図書館ですが、ここに箱崎には福岡県立図書館がありますが、ちょっと手狭になりましたし、東部住民の利便性を考えますと県立図書館を誘致する提案であります。

それから、単科大学ですが、やはり、箱崎は学生のまちとしてきていますので、そういう若者が賑わう活性化につながる施設として、単科大学をもって誘致したいというふうに考えています。

それから3番目としましては、グラウンドですね現在3号線沿いにあるグラウンドとか体育館、これも利活用できる形で、箱崎中のグラウンドとかいう形ででも利用できるのではなかろうかと思っております。

最後に、九大病院との連携でございますが、若い人が障がい者・高齢者と一緒に行動して社会参加ができるまちを目指すために、そういう自立施設や福祉施設を設置してはどうかと思っております。最後に、高度医療の中核センターとしての九大病院との連携を図りまして、外国からの研究者を受け入れる最先端の医療研修研究施設を配置するという要望をしています。また、後ろに図面を付けていますが、これはあくまでも概略で付けさせていただいておりますが、このような配置で我々としては提案させて頂いております。以上でございます。

7. 質疑及び意見交換

<p>出口委員 長</p>	<p>どうもありがとうございました。今、事務局からの資料の説明と、地元の4校区の協議会の提案の概要を説明頂きました。それでは残りの時間で皆様からご発言を頂きたいと思います。今日はあまり時間が無くなく、第1回目ということでもありますので、地域の今後を踏まえた課題ですとか、あるいは今後のまちづくりの方針に繋がっていくヒントやキーワードがあれば、出して頂ければと思っております。それ以外にも本日説明いただきました資料について、不明な点や補足すべき点がありましたら、それらをご指摘ください。今日答えられるものは事務局で答えてもらいますし、答えられないものは宿題とさせていただきます、次回に向けて準備作業をして頂きたいと思っております。どこからでも結構ですので、如何でしょうか。どうしましょう。地元の4校区の協議会の方、今、ご説明がありました、もし補足などありましたら発言をお願いします。</p>
<p>山内委員</p>	<p>先程の説明を聞いていて、改めて思ったのが、どこを見ても結局はこの広大な跡地をどう開発するかという話ばかりなんです。開発しちやいかんとは言いませんけども、もう少し視点を変えるべきじゃないかと思ったんですが、ぜひ、2回目からの議論でその辺を含めた議論が出来たら良いと思ってるんですけど、どうなんですかね。例えば、九大がこの前発表されてますが、総合環境防災ステーション。じゃないかな。救急センター。防災強化の為にアジア丸ごと救急センターを設立するという事で非常に良いものが出ています。我々の提案のメインになっている環境防災ステーションと噛み合わんかなあと見よったんですけども。そういうものとかですね。とにかく42.6haを、福岡市でいえば最後の土地だということで、これをどう開発して福岡市の発展に資するかという視点だけでなく、基本的に、全体的に言えば、環境を中心とした保存地区というくらいのことを考えるべきじゃないかと思えます。先程、九大の歴史の説明でも、九大がどういうものを持っているかという説明が何も無いんですね。そういう点でも残念だなと。もう少しそういう視点から見ると、九大の跡地をどうしていくかということは、今言ったような別の視点が出てくると思えますし、我々はそういう観点からの4校区の提案を皆で話し合ったつもりであります。長くなりましたが。</p>
<p>出口委員 長</p>	<p>どうもありがとうございます。もしかしたらご指摘の点は今後の宿題に繋がるかもしれないですね。最後にご指摘いただきました点は、九州大学がこの地で100年間活動を続けてきたという歴史があるわけですが、その歴史を積み重ねた結果、まだここにある資産、具体的には建築物や樹木、記念碑といった資産があるだろうというご指摘です。それらはきちんと整理されているのでしょうか。地図上に整理したり、リストとして整理するなど、そういったものを今後のキャンパスで、九州大学の移転後に、どのようにしてその資産を活用していくのかを検討していく上で重要なデータになるのではないかとご指摘だと思います。そういった理解でよろしいでしょうか。そういったデータ、あるいは資料について整理をしていただく必要があると思います。</p>
<p>山内委員</p>	<p>それだけじゃありません。</p>

<p>出口委員長</p>	<p>まずそれが最後のご発言の点です。 それから、まだ今日は始まって第1回目ですので、主に都市データについて整理してもらいました。都市計画、上位計画についての位置づけ、過去から現在に至る都市データを整理してもらいました。 方針を立てる上でのアプローチとして、まず、新たな施設や機能をここに創るという視点でいくのか、あるいは新たな機能でここを埋め尽くすのではなく、時間をかけて跡地利用を進めていくということでしょうか。そういう理解でよろしいでしょうか。山内委員の意見は、一気呵成で何かを作り上げていくのではなく、時間をかけて跡地利用を進めていく、ということだと私は理解しましたが、それで良いでしょうか。斉藤委員のほうから補足があればどうぞ。</p>
<p>斉藤委員</p>	<p>山内さんのお話は、たぶん開発することそのものについてのご指摘をされたのだと思います。先程から出口先生がおっしゃるように、考え方が変わってきているわけですから、環境という、開発という言葉そのものを有る意味で見直す必要がある。何もしないことも開発に含まれるのではないかと。何もしないとすると、今のまま残るといふ話になるが、そうではなくて、そのままに残した上でどううまく使っていくのか。いわゆる営みの部分です。そこの所も踏まえて、単に何かを作るという話ではなく、山内さんは今日開発の説明で読まれたようですが、僕は違うと思う。現況の説明を色々なもので出してくれた。その上で、山内さんのような考え方も含めて、この委員会の中で話をしていく。それは出口委員長が言われた。そういう話だろうと思いますがそのように受け止めました。</p>
<p>出口委員長</p>	<p>どうでしょうか。何か事務局の方からありますか。2点ありましたが。</p>
<p>事務局(萩尾)</p>	<p>今日の資料は、今のところは、ここの中だけではなく、この地区がどういう状況になっているかについて、情報の共有をして頂くための第一歩として。山内委員からありました建物や緑とか、委員長が言われた博物館とか、近代から100年をかけた財産がこの地区に沢山残っていることは承知しておりますので、それについては次回以降の会議でも、少しある程度まとめてさせていただいて、説明できるものがあれば説明させていただく形になると思います。 それからと開発かそうでないかといったことは、まだ今からのご議論になりますので、それについてはそれこそ議論していただいて我々でお答えしていくという形でしょうか。</p>
<p>出口委員長</p>	<p>他の委員の方は如何でしょうか。第2回目からはまちづくりの方針、課題の整理、方向性などを議論していきますが、その議論に向けて、こういった着眼点でアプローチしたらよろしいのではないかと、あるいはこういった課題を共有しておいた方がよいのではないかと、といったご意見はありませんか。あるいは今日の資料に対しての質問でも結構です。よろしくお願ひします。はい、では久間さん。</p>
<p>久間委員</p>	<p>説明ありがとうございました。どうしても金融機関という面から、こういう観点も今後は必要になってくるのではないかと、ビジネス面、金融面の話なんですが、九州大学統合移転事業の仕組みとして、六本松なり箱崎キャンパスを売った代金をもって伊都キャンパスに移転するというそもそものスキームがあるということが大前提になっています。どういう使い方をするか、どこに売却するかも含めての議論が必要で、いかに素晴らしいものを描いても、誰も引取手がないとか買取先がなくて元も子もないので、その観点はまず押さえてはいけないと思います。その上で地域の意見をどう取り込むか。それから福岡市としてもアジアとの関係を標榜していますし、トップの計画がありますので、そういういくつかの大事なポイントをビジョンにどう結びつけていくかを総合的に考えていく必要があるという気がしています。</p>

出口委員長	<p>はい、ありがとうございます。統合移転というプロジェクトの一つの前提条件として、皆さんときちんと確認した上で、この委員会で将来ビジョンの検討を進めていきたいと思っています。また、必要であれば次回以降に立てられる事業のスケジュールをご提示して頂ければ宜しいと思います。それを前提にした上で次回以降に協議していきたい。</p> <p>他に如何でしょうか。松田さん如何でしょうか。</p>
松田委員	<p>今の久間さんの視点に加えてですが、それを考えようと思った時に、今回頂いた資料の中に土地の価格の変動であるとか他の跡地活用事例の事業費はどれくらいかという財務の数字がないので、そういう資料を頂けると有難いと思います。</p> <p>中々言いにくいことだと思いますけれども、一番のステークホルダーである九大にとっては、いかに高く売るかでしょうし、買い取り手の方にとっては、どんな使い方が出来るのかによって価格が大きく変わってくるという、当事者にとって切実な問題をここで私達が安易にお話しできないなという部分もあるので、もう一度現実を確認することも必要なのかなと思いますし、ただ一方で100年前に大きな挑戦をされて、これだけの歴史と福岡全体の発展を作ってきた土地であることを考えると、やはり校区の皆様がおっしゃっているように、50年後、100年後を考えた大きなビジョンを作らなければいけないという思いでもおきますので、そのバランスを取るためにもの確な客観データを頂けると有難いと思います。</p>
山内委員	<p>先程の久間委員の意見ですけれども、ストレートにそういうことであれば、議論をする必要はないんですね。高い所に売ってしまえば良いわけですから。そういう訳にはいかんのが、この跡地問題なので、やはり絵を描くのと、それをどうやって資金を作るのかの両方を考えなくてはいけない話です。売却だけではなくて。国が主な責任を持たなくてはいけない話でもあるわけで。跡地をどうやって高く売るかということに、我々がそんな事を考えていたら、どうしようもない話で、私は、そういう点で、我々はその辺はあまり気にせずに、どうあるべきかということをしっかり議論することが大事だと思います。</p>
出口委員長	<p>はい、ありがとうございます。恐らく、久間さんはそういった極論を申し上げたのではないと思います。</p>
久間委員	<p>はい。出口委員長がおっしゃる通りで事業性のみを重視するというのではなく、この地域がどうあるべきかを考える上で、いくつかの大事なポイントを踏まえ総合的に考える必要があるというのが先ほどの発言の主旨です。</p>
出口委員長	<p>はい、おっしゃる通りだと思います。はい、では。</p>
塚原委員	<p>まさに今良いことを言われて、どうするべきかという話が、次回以降だと思います。例えば福岡全体の中で、福岡が100年後、50年後にどういう都市でありたいのか、そのために必要な機能は何かという事は、要するに福岡がこうあるべきだ、九州がこうあるべきだ、西日本地区がこうあるべきだというなかでの議論は次回以降、先ほど福岡市の将来ビジョンという話もありましたし、まちなかでこれだけの交通条件があるままとった土地は滅多に出てくることはないと思いますので、実際にいくらで売れるかという事も当然あるんですけども、この地域でどうあるべきかということも是非、総合計画などとの絡みで、説明資料をいただければ。</p> <p>私はまちづくり、地域づくりをまず考えていかないといけない。どうあるべきだということを議論する必要がある。それが箱崎地域にも良いものになっていけばと思います。</p>
出口委員長	<p>はい、ありがとうございます。今いくつかの考え方、アプローチの仕方についてご発言頂いてますが、何か関連する意見はありますか。はい、貞刈委員お願いします。</p>

貞刈委員	<p>今大事な議論をされたなと思って、いくらか個人的な意見になりますけど、今日の資料をずっと見てまして、福岡市として関心がある興味があるところは、歴史的建造物とか樹木等についての活用の提言とか出てきているんですけどその辺はぜひ必要なことじゃないのかなと。九大100年という歴史というのがこの土地に付いていると思いますので、その辺は大事にしていくべきものかなと思います。</p> <p>一方で、冒頭ありましたけども、九大の統合移転というのは跡地の売却によって初めて進む。それが何年先という話ではなくて、ここ1年2年での非常に重要な課題となっているというのはございますんで、そういう、いかにしたらこの土地が流動化するかをしっかりと検討することも必要かなと思います。ですから色々な要件を入れていくわけですから、そのために全体ビジョンというのが、ここで色々な方々からご意見を頂いて作っていくのが大事だと思っています。</p> <p>あんまり、話ししてもあれなんですけど、私はやっぱり、これだけ広い土地は国県、市もそうですが、そういった公的利用と、それと民間利用の組み合わせ、そういったベストミックスがどの位出来るのかなという事に懸かっているのかなと思います。それと同時に売却だけじゃなくて、色々な土地開発の手法はありますから、そういう手法も取り入れて、いかに九大の移転が円滑にいくかという視点も忘れずにやって頂けたらと思います。</p> <p>それから公的利用という点については、箱崎というこの場所、いろんな、事務局の方も資料を出していますし、地元の方からもご要望があります。箱崎にどの位の現実的なニーズがあるのか。或いは地域ニーズがあるのか。その辺は地元提案も含めて、しっかりと精査をしていく中で、どうやっていくのか、新しいものが出てくる部分もあると思いまし、既存の建物が沢山ありますけれども、既存の施設を上手く利活用するような形でも何か出来ないのか。その辺をしっかりと詰めていく必要があるかなと思います。</p>
出口委員長	<p>はい、ありがとうございます。福岡市の方で総合計画が作られますが、そちらにうまく反映していただけるようなビジョンが出せればと思いますし、今日は色々な立場の方にお越し頂いていますので、お互いの立場や考え方を理解し合うことも、この委員会の重要な過程ではないかと思しますので、宜しくお願いいたします。他に如何でしょうか。</p>
益村委員	<p>箱崎キャンパスは、交通の便が良いことから、物流の面でも重要な位置にあります。とくに、福岡が国際戦略総合特区に指定されたことを勘案すると、中長期的計画に箱崎キャンパス跡地を物流の拠点として利用するという広域的視点も必要になるのではないかと思います。</p> <p>もう一つは、ここに来るのにこの地域を車で見てきましたが、地元の商店街の方々に目を向ける必要があると感じています。九大があることによって商売が成り立っている方々についてですが、九大が移転することによって、地元商店街や住民の方々の生活への影響を考慮すれば、雇用の創出という点も考える必要があるのではないかと思います。</p> <p>先程のご説明のなかで、人口構成についてみると、20歳代の大学生などの数は減っているけれども、30歳代～40歳代のファミリー層が増えているということがあげられていましたのでこの要因を踏まえるとまた違った視点も必要になるかもしれません。</p> <p>いずれにせよ、今後の福岡市、福岡県、そして九州の中の福岡の位置づけについて考えると同時に、アジアとの関連といった広域的な視点での議論が望まれると思います。</p> <p>人口構成の面や地元の方々の生活を考えると同時に、アジア等との国際物流拠点としての福岡の魅力を引き出す潜在力が、箱崎キャンパス跡地には大いにあると思っています。例えば、博多港などを起点として、福岡、九州、そして日本経済を活性化させる拠点機能としての可能性をこの地域に見出すということ、中長期的観点から見ればいいなと思っています。広大なスケールになってしまいましたが、地域活性化や日本経済活性化につながる観点からも検討できればいいなと思います。</p>

出口委員長	ありがとうございます。もう少し広域的な観点からこの地図を見ると、ウォーターフロントの方まで入った地図があり、福岡市の物流拠点に非常に近い位置にあるので、福岡市の発展にとって、この地区がどのように貢献できるのかという点は、一つの着眼点になります。そのためのシナリオを作っていく上では、データなり、情報なりが必要ですかね。
益村委員	総合計画との関係で、どうするのかという中・長期的なビジョンですね。
出口委員長	これはまた議論をしていくしかないのかもしれませんが、他にも如何でしょう。はい、では。
岸委員	<p>広域的なという話が出ましたが、私も同感でして、これだけの規模の跡地利用というのは、今後福岡都市圏では恐らく無いと思います。全国的に見ても非常にあまり数が多いか少ないかと思しますので、この跡地そのものをどうするかという議論も大事ですけども、都市計画も含めた広域的な視点で、そして時間軸も中・長期的な観点でもって、ぜひ、土地利用のあるべき論というのを、この委員会ですべていけたら良いのかなと思っています。</p> <p>その際に本日は説明がなかったですが、全国のこれまでの大規模な跡地利用の例があると思いますので、勿論、時代背景とか地域性が違うので、単純な比較は出来ないとは思いますが、是非、そういった事例を横に見ながら、先生方のご知見、そして全国的なノウハウという面では本日もいらっしゃるURさんの知見もあると思いますので、次回以降にそういった事をご紹介頂けたら良いのかなと思います。</p>
出口委員長	ありがとうございます。URさんは六本松の跡地についても関わってこられましたし、全国的にも事例があると思いますが、何かご示唆などありましたらお願いします。
土橋委員	<p>現在、私共は六本松の跡地のまちづくりを推進いたしておりますけども、今日はそういう視点ではなく、将来ビジョンを作るに当たっての議論ということでございますので、そういう視点での話をしたいと思います。</p> <p>広域的な視点というのは、まさにお二方がおっしゃったようなことだと思いますけども、ビジョンを作るに当たって、事務局からも地区の変遷について詳細な説明がありましたけども、また、各委員の方もおっしゃってますように、地域や土地が持つ歴史、伝統、文化を大切にしつつ、また、新たなまちづくり視点ということでは、昨年起きました東北の震災を受けて、防災性というものを確保した、安心・安全なまち、また、将来的には、福岡はまだ人口が伸びると言われてはいますが、将来的には高齢化、人口減少が続くと思いますので、そういう中でのまちづくりをどうするのか。あと環境、エコ、低炭素への取り組みなど、何らかの魅力づけをしていくビジョンを整理していく必要があるかなと思っています。</p>
出口委員長	<p>はい、ありがとうございます。これから東区の方も高齢化が進んでいくと思います。今日もそれに対応する資料がございましたが、高齢化が進んでいった時に、高齢化が進んでも元気な高齢者が沢山いる地区にするために、予防的な対策を進めていくことは、非常に重要です。しかし、高齢者が増えますと、どうしても医療施設や色々なケアのサービスも必要になってきます。そういったものをカバーする上で、この跡地がどう役に立つのかは、一つの重要な着眼点だと思います。他に如何でしょう。</p> <p>あと、「広域的な発想」という事を何人かの方に強調して頂きました。また、「地域からの発想」という事で、先程4校区協議会からのご提案を見ますと、箱崎中学校の移転、あるいは県立図書館など、近隣にある施設の名称が具体的に出てきました。ちょっとこの点を補足して頂けますか。これは、こちらに新設するという事ですか、それとも既存の施設を移転させるという意味でしょうか。その辺の考え方の補足をお願いします。</p>

箱嶋委員	<p>箱崎中学校につきましては、やはり校区外にあるということがありますし、川の横にありますので、非常に安心・安全から言うと非常に悪い場所にあるということでございますので、せっかく4校区が、住民からいくと中心的な位置にあるのが九大キャンパスだと思います。九大を通過して箱崎中学校に行くというかたちでしたので、やはり建物を利用できればいいのしょうけれど、そうではなくて、箱崎中学校については、耐震化も進んでいないと思いますので、九州大学の構内に移転、新設ですね。県立図書館につきましては、今現在手狭で車も駐車場も少なく、緑もないような所なので、今現在ある九州大学の横に中央図書館というのが機能がそのまま使えるのではなかろうかということで県立図書館の移転というものを考えております。</p>
出口委員長	それによって移転した後の跡地は、また有効に活用するということですか。
箱嶋委員	当然そういう事です。有効に活用して頂きたいなど。
出口委員長	地域の機能を更新していく上で、地元の方々のおおっしゃることは非常に重要な課題だと思います。
箱嶋委員	そうだと思います。特に箱崎中学校の事は重要だと思います。図書館につきましては、今ある中央図書館を壊すのは勿体ないということで、それを図書館にしようと思っているわけでございます。
出口委員長	<p>現在の図書館も移転し、移転後の施設は別途活用するようなイメージでいらっしゃるということですかね。先の先まで考えていらっしゃるんですね。</p> <p>はい、ありがとうございます。他に如何でしょうか。地域の商工関係の方も来て頂いておりますが、他に如何でしょうか。</p>
橋本委員	<p>商工会議所でございますけども、一つは、42.6haの跡地利用だけの話で、校区のデータ等、非常に具体的でここまで提案出来るのかと思いました。こちらも頑張らなければいけないと感じております。</p> <p>42.6haと広域という話ですけど、校区の人達は中域というとおかしいんですけども、ここの地域計画的なものもきちんともらうのも同時に必要だというふうに思っています。というのは、人口が増えてるということで、どういうまち全体になっていくのか。それと、42.6haと広域な世界がミックスされてある。それは、市とか県なんか戦略的に考えてるんでしょうけども、42.6haの中の提案に、市とか県とか国から色々出てくるので。それと統合の事業計画ですか、あと数年で売却する時の事業主体というのがありますので、そここのところも商工会議所として注目して見たいので、ぜひ校区の人達のこのような提案が地域の商工業者と一緒になるような感じでの検討をして頂きたいなど、そのような場や色々な資料を出して頂きたいという気がします。</p>
出口委員長	関連で、はい、どうぞ。
箱嶋委員	人口が増えているというのは、我々も説明を受けて分かった感じなんですけども、増えていると言っても、マンションや集合住宅が増えているだけであって、地域コミュニティからすると、あまり好ましくなくて、その人達が箱崎商店街で近隣で買い物をしているのかというそうでなくて、車でバイパス沿いの大型店舗で買い物をしている。現在それが直接結びついているわけではないんですね。増えているから良いかどうかというのはまた別の問題だと、我々は、私は思っています。
出口委員長	<p>地域の商業事業者の観点からみると、この跡地はどのようにご覧になっているのでしょうか。私共がここで活動をしていた時には、大変お世話になりましたが、工学系が移転をして、その後、恐らく商業にも色々な影響があったと思います。今後、もしこの跡地に絡めて考えると、こういったようなことが考えられますか。</p>

箱嶋委員	やはり我々が調査した所によると、学生さん達は地下鉄で降りて天神にいたりという形で、駅での乗降のみで、地元商店街等との関連が昔のようにはなかった気がします。商店街が具体的にどういうふうな対応をしているのかは目に見えないですけども、九大跡地に期待をしているという面はあると思います。
出口委員長	はい、ありがとうございます。他に如何ですか。九経連の方どうでしょうか。
漆間委員	九州経済連合会でございます。冒頭の出口先生の話とかぶる所があると思います。経済界として見た時に、軸として時間軸と広域的な面、2つのポイントがあるかと思えます。 時間軸を見た時には、いわゆる社会情勢が今までと全然違ってくる。めまぐるしく変化していく。例えば、今まで話があったような少子高齢化、人口の減少の問題は、経済活動に効いてきます。それから特にグローバル化、アジアとの関連ですとか、情報手段の革命や交通手段の発達等の色々な事が出てくると思えます。そういったものが時間軸としてどうなっていくのかを可能な限り見ていきながら、ここにどういうものが最適かを考える。 もう一つは、広域的な面。先程から話が出ておりますけれど、我々もそういう視点で見えておりますが、九州全体への経済的な波及効果の様なものが出てくれば非常に有難いと思えます。先程物流の話がありましたが、福岡市の強み、民間の活力を如何に出すのか、そういった視点が九州全体への波及効果という意味では大事になってくるのではないだろうかと思えます。 一回目なので、まだ漠然とした印象しかないのですが、そのように感じました。
出口委員長	移転そのものは非常に長いスパンで行なわれていますが、その跡地利用も一斉のせで一気にがらりと変わることはないと思えます。非常に長いスパンの跡地利用のプロジェクトになってくると思えます。そういった長い時間軸で考えた時に、福岡市やこの地域の社会動態はどのように変わっていくのでしょうか。先程、高齢化のお話もありましたが、事業者の活動もどう変化していくのかを皆さんと共有した上で、プロジェクト、プロジェクトという語弊がありますが、跡地利用を考えていく着眼点を頂きました。ありがとうございます。 他に如何でしょう。県の方からございますか。
野田委員	先程のご説明の中で、霞ヶ関が丸ごと入るぐらいの広さだというお話がありました。今丁度震災後で国の方で、首都機能の移転やバックアップ機能の検討とか、もう少し言いますと首都機能を恒久的に分散化する。そのような議論も多分これから起きていくのではないかと感じておりました。 福岡市の方でも総合計画を作るという事で、そういう機能の一翼を担う様な発想もあるという話も聞いたことがありますので。これがどういうふうに動くのか全く分かりませんが、そういう動きもある程度意識してしっかり見ておいた方が良いのではないかと思います。
出口委員長	はい、ありがとうございます。この42.6haという規模をキャンパスで活動していた人たちが端から端まで全て把握していたわけではありませんし、この規模の持つ可能性、或いは難しさみたいなものも、共有しておく必要があるだろうというご指摘だと思います。 他に如何でしょう。何かございますか。ちょっと、予定の時間を過ぎておりますけれども九経調の田代さんにご発言いただきまして、それから坂井先生。

田代委員	<p>参考になるかどうか分かりませんが、今から約20年前に、私ども九経調で北九州市の響灘地区というエリアの構想を考えた事がありました。響灘地区というのは、若松の北側に産業廃棄物を埋め立てていたら、広大な土地が出来た地区なのです。その2000haをどう使おうかという構想で、私どもも一緒に調べていったのです。その時、エネルギーの拠点にしようとか、一部住宅も貼り付けようとか、国際物流の拠点と、あとリサイクルの拠点にしようということで、まとめて提案を致しました。</p> <p>今、北九州はリサイクルを環境産業として売っていますけれど、大体20年ぐらい前から始めていったということで、新しい産業が生まれていったきっかけになったのです。ですから九大跡地も、今後50年、100年までを見通すのは大変でしょうけど、やはり20、30年先までを見通して、福岡市がこういう分野で発展していけたらいいなとか、既存の産業集積を基にして、それから派生した所でこういう分野が伸びていったらいいなと思うようなものを、このまとまった42haで使えるように出来たらなと思います。</p> <p>防災というのも、一つの非常に大きな観点かと思えます。しかし、防災だけだと、あまり産業には結びつきにくい面もありまして、地域活性化という意味では、せっかくの土地を使って福岡市全体、あるいは九州、西日本全体が発展する為の土地としては、ちょっと勿体ないなという気もします。</p> <p>ですから、これだけのまとまった交通至便な、RORO船が発着する港にも近いような場所ですから、国際物流拠点もありえるかもしれません。今後福岡市が、九州のために、西日本のために、どういう分野の産業が伸びていったらいいかを踏まえた使い方を、皆さんのお知恵を頂きながら、考えていければなと思います。</p>
出口委員長	<p>是非、これまでご検討されてきた蓄積もあると思いますので、お知恵をお借りしたいと思えます。宜しく願います。よろしいですか。九大側はよろしいですか。主催者側ということですが、何かございますか。</p>
井戸委員	<p>売主の方ですから、あまり発言しますと制約がかかってしまうんですけども(2:12:50)、まちづくりの素人ということなんですけど、一言だけ申し上げたいと思えます。</p> <p>先程、野田委員が言われたました首都機能のバックアップ機能というのは非常に大事な視点ではなかろうかと私も思っております。最近、東日本大震災の後、首都圏で直下型の地震が起きるとかですね報道がされております。もしそれが起きたら、本当に日本海側の特に東京から離れている福岡市というのは、大きな役割を果たすのではなかろうかなと私は思っておりますので、そういった視点というものもですね、このまちづくりの中で考えていくのも良いアイデアではないかというふうに思っております。</p>
出口委員長	<p>はい、ありがとうございます。これは国の関係になってきますが、財務支局の方、あるいは建政部長さんからございましたら。</p>
阿部委員	<p>先程4校区の方、平成10年に国有財産審議会が当時ございました当時この九州大学は国有財産がございましたので、国有財産審議会にかかっております。当時、九州大学で跡地利用の問題が出たものですから、私共は九大の審議会に入っていたのです。当時六本松の方が動きだしまして、今現在六本松の方はURさんの施行で法曹機能を持ってこようとあとは、その玉突きで場内を色々整備しようということになっております。</p> <p>それから、この箱崎地区につきましては、当然長期にかかることで、当時はまだ20世紀でございましたので、社会情勢の変化を見極めて21世紀にふさわしいまちづくりを作ろうということで、この検討委員会があると思えますので。この10年間の変化を踏まえてこの委員会で意見を言わなければいけないかと思えます。</p>

<p>出口委員長</p>	<p>はい、ありがとうございます。馬場委員からご意見頂きたいのですが、私はやはりこの跡地利用に関しては、インフラ整備は不可欠ではないかと思っております。が、3つの駅がございますが、箱崎駅は移転し、最近リニューアルされて近くなりました。貝塚駅は元々結節点としての機能が総合計画にはあったのですが、なかなかそれが強化されていない。要するに、第8次の総合計画がきちんと実現されていないのではないかとと思っておりますが、如何でしょうか。今後のインフラ整備や土地利用の転換の際に、都市計画としてどういうお考えでいらっしゃるのかご発言頂ければと思います。</p>
<p>馬場委員</p>	<p>私は委員という名前ですが、事務局も所管しておりますので発言しにくい面もあるのですが、今先生が言われたように、この跡地利用を考える上で、交通の体系は非常に重要でしっかり考えていく必要はあるかと思っております。これまで新規開発となると、どうしても福岡市の場合、後追いで交通がいくということで、非常に批判を受けるところなんですけども、ここは先生がおっしゃったように、既に地下鉄も通っており、まだまだ沢山乗って頂ける余裕のある地下鉄でございます。跡地利用で地下鉄がもっと生かされるようになれば良いかなと思っております。</p> <p>今日は委員の皆様にご意見を頂いて事務局としては非常に有難いと思っております。委員の皆様から意見が出ていますように、やはり42.6haという非常に広い土地でございますので、広域的な機能から地域の機能、それから中域という言葉もございましたけれど、そういった都市機能が重なる様な形で、重層的に土地利用がされるのであろうと思っております。今箱崎はマスタープランの中では、地域中心ということになっていますけれども、このビジョン次第ではマスタープランの中の位置づけもまた変わる可能性もあるのかなと思っております。</p> <p>それから、これは私が思っていることですが、この地区は都心と北九州方向を繋ぐ縦軸と申しますか、縦軸上に位置するというイメージがもの凄く強いのですが、今日色々お聞きする中で、横軸と申しますか、港から福岡県の中央を結ぶ軸、そういったものも合わせて考えていかなければいけないのかなと。そのような軸をどう位置付けるのか。それによって跡地利用をどう考えていくのか。それが私としては一つ楽しみにしていることでございます。</p> <p>戻りますが、福岡市としましては、これから高齢化等が進む中で、公共交通は中心に据えていきたいと思っております。ですから、「鉄道を中心にしたコンパクトなまち」というのが一つのテーマでございますので、既にごございます地下鉄、それから西鉄貝塚線、そういった現在の交通体系を上手く生かしていけたらと思っております。そうすると、将来的には直通運転もしっかり取り組むことが出来るのではないかとと思っております。</p>
<p>出口委員長</p>	<p>ぜひ宜しくお願いします。</p>
<p>芝田委員</p>	<p>先程、箱崎中学校の問題が出てましたけども、松島校区という所にあるのですが、校区外で。この地域は実はかなり水害の発生地域なのです。そういうことを皆さんはよく知られていないのです。市に要求したいのは、今回市の方も防災に強いまちづくりと謳っていらっしゃいますけれど、災害予測のデータやそういうのが一切出てませんよね。実際にこの辺で過去に沢山水害が起こっているというデータも今回一切載っていません。そういうものを次回ぜひ出して頂きたいと思っております。松島校区も2009年のゲリラ豪雨の時は、かなりの浸水被害が出ております。筥松地区もそうです。そういう災害の部分、先程山内委員がおっしゃったように、余計なものを作って逆にそれが妨げになるケースも考えられますから、その辺のデータもきっちり出して頂きたい。</p> <p>それと、災害で私達の校区がもう一つ思っていますのは、航空機ですね。騒音の問題もある意味災害として捉えている部分もあります。その辺のデータをもっと詳細に出して頂きたいなというのがありますのと。</p> <p>自分はこの中では若い委員の代表だと思うのですが、地域でこの話をして、大体出</p>

	<p>てくるのは、じいさんとばあさんしか出てこないんですね。若い世代の人は、ほとんど関心がないというか、興味を示されていない。これは、たぶん我々の責任でもあるし、市のもしくは九大の方ももっと公開して、こういう問題をやっているというアピール不足があるだろうと思います。実際若い子は出てきていませんので、地域で公聴会をした時。その辺の努力をもう少しして頂きたいなど。次回以降に反映して頂きたいと思います。切なる思いであります。宜しくお願いします。</p>
出口委員長	<p>はい、ありがとうございます。もっときちんと地域の方々に色々な情報を活発に提供すると、それに刺激を受けて若い方々も参加し易い環境が出来上がってくるのではないかと思います。そういうご指摘かと思えます。それは仕組みの問題かもしれませんね。是非、それも含めて検討していきたいと思えますので、宜しくお願いいたします。</p> <p>それから、河川の災害については、塚原先生がご専門なのですが、時間が長くなるので次回にご解説、情報提供をお願いしたいと思えます。最後に坂井先生の方からご発言頂いても宜しいですか。</p>
坂井委員	<p>総合計画の関係とか馬場局長から大変勇気の出るお話を頂きましたけども、箱崎の位置づけですね、やはり、福岡市において副都心というのは香椎の方であって、箱崎ではない。距離感だけで言うと、西新や大橋と同じような距離にあるのに違うというのはなぜかと思っていました。</p> <p>一つに福岡市の発展に九州大学は大きく貢献をしたと言われておりますけれども、実は近くを見るとどうも疎外要因になっていたのではないかと。</p> <p>箱崎のまちは、戦争の被害を受けなかったということもあって、細い路地が多いんですね。今の言葉で言うと浸透性が出来やすいまち。permeabilityの高いまちという評価がされているのではないかと思うんですけども、九州大学はpermeabilityがゼロです。これを、大学がいなくなることによって、東西の動線の話もありましたけども、産業、物流の機能、そういった視点を検討することによって、九大がいなくなったお陰でといいますか、九大が良いものを残していったと言って頂けるような検討がこれから出来ればと思いました。どうもありがとうございました。</p>
出口委員長	<p>それでは、予定の時間が過ぎてしまいましたので、簡単に私の方でまとめをさせて頂き、第二回目につなげていきたいと思えます。本日は第一回目ですので、まずは皆様の考え方についてのご紹介を頂いたと思っております。大きくは二つあり、一つは第二回目の委員会にあたり、いくつか宿題が出されたと思えます。</p> <p>一つは、地元の方からのご指摘ですが、九州大学がこの地で100年間活動をしてきた資産として、建築物、樹木、記念碑といった歴史的な資産があり、皆さんにきちんと分かるような、あるいは勉強が出来るような整理をして頂きたいと思えます。</p> <p>それから、この跡地利用将来ビジョンの前提となっている事業スキーム、あるいは事業のスケジュールがあると思えます。それもやはり皆さんときちんと共有した上で議論して頂く必要がありますので、ご提示して頂きたいと思えます。</p> <p>ただ、気をつけないといけないのは、跡地の処分を前提にした処分方法を考える委員会にしてしまうと、採算性、あるいは事業性に縛られてしまい、夢のある話が出来ませんので、事業の前提条件として理解した上で、色々な可能性を考えていくという点を皆さんと共有しておきたいと思えます。</p> <p>それから、跡地利用における従来の「開発」という概念は、とにかく土地を建物で埋めていくという考え方でしたが、そういった考え方は、むしろ古く、20世紀型の「開発」を考えるのではなく、これからはもっと長い目で見て、「開発」というものの考え方を考え直して頂きたいというご意見がありました。20世紀型の先入観に捉われない考え方で検討していくことのご提案がありました。そうした考え方があることも皆さんで共有していきたいと思えます。</p> <p>今後のこの地域のまちづくり方針というのが資料にありましたが、方針や方向性を考えていく時に、いくつかの観点を本日は頂きました。</p> <p>一つは、広域的な観点からというご発言がありました。福岡市、福岡都市圏全体か</p>

	<p>ら見た時のこの地域の位置づけ、特に港湾施設、あるいは物流施設が非常に近接しており、市街地との接点に位置しているわけです。そういった点を踏まえながら、福岡市や福岡都市圏の中での位置づけを考え、期待される機能や可能性のある機能をまず洗い出していくことを進めていただきたいと思います。</p> <p>それから、もう一つは、もう少し狭い地域の観点です。この狭い地域の中でも老朽化した施設ですとか、或いはどうしても使い勝手が悪い、配置上問題がある施設、例えば箱崎中学校などの機能更新をしていく際の配置問題があります。</p> <p>それから、もっと大きな視点でいいますと、首都機能のバックアップというのがございました。日本全体から見た時に、東京一極集中の傾向にある中で福岡が果たす役割を検討し、ちょうど良いタイミングで跡地の大きな土地が出てきますので、そこに一部を組み合わせる可能性についてのご発言がありました。あるいは、福岡市の都心部にある機能をバックアップさせるという観点も重要ではないかと思います。首都機能だけではなく、むしろ福岡の都心部にあるような機能もバックアップするという意味も含めて、バックアップ機能というキーワードを一つ頂きました。</p> <p>さらに、もう一つは、時間軸の問題で、この跡地利用は、7年後に控えた話ですが、10年、20年、場合によっては30年ぐらいの長いスパンで、福岡市、あるいはこの地区の社会動態を、分析と予測することになると思いますが、できればそのような社会動態の変化を皆さんで共有した上で、高齢化の問題、エネルギー消費の問題、あるいは交通量の問題などを踏まえ、この跡地のあるべき姿を考えていく点が挙げられます。</p> <p>また、防災の観点がございました。水害という災害に対する対応、あるいは、地震といった突発的な災害に対する対応があり、この跡地がどのような役割を担っていくのかといった点も非常に重要な観点ですし、そのためのモデルになっていくべきではないかというご発言とも解釈できたと思います。いずれにしても、防災機能をこの地域が持つ一つの重要な役割として考えていかなければいけないということだと思います。</p> <p>いずれにしても、様々な広域的な課題、あるいはこの地区に限定して見た時の課題、様々な課題を共有することと、様々な立場の方がいらっしゃっていますが、それぞれのお立場を皆さんで理解し合うという前提に立って、この将来ビジョンを進めていきたいと思っております。その辺をどうかご理解頂ければと思いますので、宜しくお願い致します。</p> <p>非常に雑駁ではありますが、以上を本日出た意見のまとめとさせていただきます。それでは進行を事務局にお返しいたしますので、よろしくお願いします。</p>
8. 事務連絡	
9. 閉会	
事務局 (西)	<p>本日はお忙しい中お集まり頂き、闊達なご議論ありがとうございました。以上を持ちまして、第一回九州大学箱崎キャンパス跡地利用将来ビジョン検討委員会を閉会させていただきます。</p> <p>次回の委員会の開催ですが、5月下旬から6月上旬を開催予定としております。日時や会場等につきましては、後日ご案内致したいと考えておりますので、今後とも宜しくお願いします。本日はどうもありがとうございました。</p>
一同	ありがとうございました。

以上